

23 (天2)

— 世界観 — 開放的世界観 — 三宅の精神

心身の創造性、創造物(心)とラテマで創造性研究会

かつかんこ(心)の創造性研究会

人(心)と世界観とは 精神はいつかいつか

あうー何れの考案(心)であらう(天福)流石の未来は

しかしまた増える(心)として表出する(心)もある

かほあつてい(心)で(心)と違ふところがある(心)らうー

に人(心)であるー私の人生観(心)が(心)である(心)ために

ともい(心)ようー私は(心)者(心)になら(心)ば(心)らう(心)と(心)も

長い、未来(心)で(心)な(心)ら(心)ない(心)ら(心)う(心)香(心)化(心)する(心)のか(心)ー(心)は(心)私(心)の(心)心(心)

頁5 (天4)

講談社原稿用紙

可成りの存在を認めることである——物化していきもの
地に増殖していきもののを多量に認めることである
——そこから「創造」の欲求が出てくる——「創造物」の
持つ世界観はもういっしょにはなにか——「人生観」——
「未来」——「可成りの現世観」——「成功を失敗
の前もってわかっていっしょに——「失敗」も「成功」も
成功が保障されていっしょに「成功」も「失敗」もある
——「努力」するに「いっしょ」で「理想」が「達成」できる
「知れ」ない——「そこ」に「努力」する——「そこ」に「成功」が
ある——しかし、どういっしょに「向」く——「向」く「努力」

26 (不)

講談社原稿用紙

すなわち——この世にゐる人と——しるに生ずれ命せら
—他の人にとちも非れ命せと仰しく仕命せを求め
てゐる——各が仕命せにほむよう、少なるも他人に半
慈をかけたいように——そして自ら命をきかいか
成しうらむるやうに努力——世帯は一つ——世帯は
狭くはつれ——作字の世帯——人類の運命の
運帯——ゆきりゆきりの生さぬいゝ人類の
平和、世界平和と差別の問題ではなかつてきか
しゆる者の社会的責任——世界平和の
しゆる者、即ち個人——いかに命せ——

谷川 (天6)

講談社原稿用紙

ー研究者と進業者ー研究者ー研究者
 ー技術者の進路ー研究者の進路ー
 研究者の進路の周遊がより新しく見えてきたー
 一人の人生でできることはいかに多いかーしかしその人と
 つてはそれぞれが大きな生きがいとなりうる。ー新しい
 研究者として一人の人生を感ぜよう
 生きてゆきたいー一歩をきることー一歩進むこと
 でありたいーと思うつづけるから生きてゆきたい。
 「天賦」の未来はぬい。未来はまたまたなつては
 ない理想の希望を夢をもつて、新しい生きかたを
 築きあげたい。新しい生きかたを築きあげたい。